

仙台 — 八戸 +17

1983年4月29, 30日

5月1, 2, 3, 4, 5日

6泊7日

費用共2,000—

4月29日

仙台 — 松島 (松島YH)

30日

松島 — 陸前高田 (陸前高田YH)

5月1日

陸前高田 — 宮古 (小本宿泊)

2日

宮古 滞在

3日

宮古 — 小本

4日

小本 — 八戸



 ** チャリンコ旅日記 No.4 **
 ** Resistance Of My Mind 19910315 **

【 1983年 4/29日から 5/5日 仙台市 から 八戸市 514Km 】

【4月29日(金)】 曇り/雨 走行距離 60Km
 (電車) 前橋駅 → 小山 → 仙台駅 走行時間 4時間7分
 (自転車) 仙台駅 → 塩釜 → 松島

4:00	自宅 出る	雨上がり	13:56	塩釜港	
5:54	前橋駅 出る	¥5800-	14:24	双観山	
12:03	仙台駅 着		30	出る	
————— 自転車 —————			15:14	富山	
12:50	仙台駅 出る		40	野蒜駅	
13:26	休み	パン、ジュース ¥190-	45	松島YH	¥2700-
35	出る				ジュース ¥100-

急行松島1号で降り立った2度目の仙台駅は、今にも雨が降り出しそうな空模様だった。今回の旅は、3、4年前の友人に逢う事が、一つの目的だった。高校を卒業して大学へ行く頭がなく、東京の池袋にある専門学校へ通う事にした。その時、学校の同じ寮にいたのが今回逢う友人で、北海道出身の倉知と言う。彼は現在、運輸省に勤務していて航空管制の仕事をしている。航空管制の仕事と言っても、飛行場の管制塔にいる訳ではない。ちょうど、船で言う燈台の様な所で、飛行機の安全を見守っているのです。その様な、空の燈台が、国内に数カ所あって、現在、岩手県宮古市の北20Km程の所にある小本と言う小さな町に住んでいる。

2カ月前から、お互いに連絡しあって、今回の旅が始まった。前回の終着駅、仙台を振出しにして3日目には、宮古に到着して久しぶりに倉知に逢う事が出来る。それを思えば、天気が悪いなどとは言っていない。1日目の予定である松島へ向けて、12時50分仙台駅をスタートする。目指すは松島YH。

塩釜市を過ぎてから、松島四大観の一つ扇谷を望む双観山に立ち寄る。それから松島町に入ると、観光客が多くなり、赤い橋の架かった五大堂に到着。松島タワーを過ぎてから、松島四大観の一つ

富山へ登った。そしたら、小雨が降り出して、景色も見られずに富山を下ってしまった。

松島YHに到着したのは、15時45分。雨上がりのくもり空。YHの前は、松林を挟んでさくら貝の海岸、野蒜海岸が広がっている。翌朝、6時頃起きて1人で海岸を散歩してさくら貝を拾ったが、旅を終えて故郷に帰ってきたときには、さくら貝はジャンパーのポケットの中で砕けてしまっていた。

【4月30日(土)】 曇り/晴

走行距離 147Km

松島 → 気仙沼 → 陸前高田

走行時間 8時間20分

7:40	松島YH 出る	12:03	休み パン、ジュース ¥180-
53	鳴瀬大橋	15	出る
8:25	へび田	49	気仙沼警察署入り口
9:43	津山町柳津本町	13:17	唐桑トンネル
53	出る パン、ジュース ¥370-	24	出る
10:17	峠 ¥370-	27	唐桑半島入り口
11:07	歌津駅	14:08	御崎神社 ジュース ¥100-
11	出る	15:48	陸前高田駅
52	本吉役場	16:00	YH着 ¥2300-
			朝食 ¥358-

牡鹿半島の先端に金華山と言う島がある。ここには、多くの鹿がいて、ある時期になると、鹿が海を渡るという話を、昔聞いた事がある。私にとって、憧れの地の一つだった。しかし、牡鹿半島には行かずに、石巻から北上川にそって北上する。山腹いっぱい広がって流れる北上川の流れは雄大で、まだ見ぬ北欧のフィヨルドを思わせる。しかし、川に沿って吹いてくる向かい風が強く、しっかりとハンドルを握っていないと、ふらついてしまう。風に倒されないようにゆっくり、ゆっくりと、R45を北へ向かう。

津山町で北上川に別れを告げて、R45沿いに太平洋へ向かう。11時頃歌津町の海岸に出る。この辺りは、牡鹿半島から北へ続く陸中海岸の南側で、道路の起伏が気になり出す。気仙沼市を12時50分に通過して、陸前高田市に到着したのは15時50分。朝から9時間近く走って、走った距離は150Km程。途中、パンを2個とジュース3本を口にしかただけの苦しい1日。YHに到着したときは、さすがにホットして、夕飯まで眠っていた。陸前高田YHも目の前が海で、夜のミーティングの時にみんなで砂浜を散歩。海上には沢山の明かりが揺らめいていた。この時期、産卵のために気仙川河口に集まってくる白魚をとる為に漁船が集まってきて、一晩中漁をするという。

【5月1日(日)】 晴/曇り

走行距離 110Km

陸前高田市 → 大船渡市 → 釜石市 → 宮古市 走行時間 6時間13分

3:05	陸前高田YH 出る	6:36	鳥谷坂トンネル 1350m
43	通岡峠	43	水海トンネル 70m
55	休み	45	休み 両石漁港 パン、ジュース、川ガミ
4:02	出る	7:00	出る 曇り ¥270-
08	大船渡駅	16	小廟坂トンネル 660m
54	大峠 (三陸トンネル)	22	大槌駅
5:05	三陸町	25	安渡トンネル
18	羅生峠 (〃トンネル)	30	吉里吉里トンネル
38	鍛冶峠 (〃トンネル)	40	大沢第一、第二トンネル
49	熊の木トンネル	8:08	山田町駅
59	白浜トンネル	38	豊間根駅
6:05	石塚トンネル 1351m	52	津軽石駅
21	釜石大観音	9:18	宮古駅 着 TEL¥30-
26	嬉石トンネル		
6:30	釜石市内		

早朝2時30分に起きて、3時まだ外も暗い内に宮古市へ向けて出発。まだ眠っている市街を通り抜けて、大船渡市へ続く通岡峠を登り始める。辺りはまだ薄暗く、時折ヘッドライトが追い越しに行く。苦しさや哀愁に引かれて後ろを振り返ると、いくつもの漁り火が瞬いていた。まるで、俺を呼び戻すかの様に。

陸前高田市から典型的なリアス式海岸となり、今までにない苦しみを強いられる。ここから宮古まで十数個の町や村があり、そこへ行くには必ず峠を越えなくてはならない。まるで、一つの山を十数回登ったり、降りたりしているようだ。

さすがにトンネルも多く、記録しただけでも14個ある。朝3時に出発して、製鉄、サッカーで有名な釜石市には6時30分に到着。途中、釜石湾を見おろす高台に釜石大観音が立っていた。

幾つもの峠を越えて宮古駅に到着したのは、9時20分。予定より3時間も早かった。さっそく友人宅へ電話を入れて、駅まで迎えにきてもらう。友人との再会を駅前で心待ちにしていた。何台かの車が、駅前に止まっては走り出していったが、そのたびに、運転席の人の顔を見ていた。そして、友人が来たとき、彼が車から出て来るまで気がつかなかった。

【5月3日(火)】 快晴

小本 → 宮古市 間往復

走行距離 72 Km

走行時間 4時間

6:05	小本 出る	8:28	田老トンネル
15	休み バン、ジエス ¥250-	33	田老町 バン、ワシ ¥960-
25	出る	43	出る
7:03	田老町	9:21	恐竜発見の地 (岩泉町茂師海岸)
08	田老トンネル	35	熊ノ鼻展望台
13	休み	55	出る
17	出る	10:06	小本 着
7:50	宮古駅		

1日、2日、3日と、倉知のアパートに泊まり、彼と車で走りまわっていたので自転車に乗る機会がなく、危うく、宮古-小本間に空白を作るところだった。しかし、倉知の仕事の合間を利用して、しっかりと自転車で走っておいた。

私は、あまり人と話をする事がなく、感情を旨く表せない。友人宅に三泊して彼に岩手県内の観光地に連れて行ってもらっていたが、彼を楽しませてやる事は、あまりなかった。そんな私を、彼は負担に思っていたようだ。最後の晩に、私は、彼に言われた。「関口は、自転車なんかに乗っていて、なにが面白くて生きているのか俺には分からない。それに、子供じみていて無口だから友達ができるわけがない。おまえと一緒にいても俺は、面白い事は何もない。」

彼の忠告は、私の性格をずばり言い当てていた。内心、だいふ頭にきたが、まだ一泊しなければならないので、我慢。(なんてゆう奴だ、俺は)

この旅で、友人の倉知に会えて良かった。この時以来、彼との付き合いは無いが、彼の忠告が今の私を作ってくれた。彼の言葉は、旅を終えてからも消える事無く私の心に留まり、4カ月後に私は、4年半勤めた会社を辞めてしまった。それは、私が墮落したのでは無く、自分を変える為、自分の可能性を求めて、よりよい生き方を望んだから。

現在の会社で早くも9年目になるが、あまり性格は変わっていないようだ。ただ、いつも諦めないで夢を追い続けている姿は、以前には無かった。

【5月4日(水)】 快晴

走行距離 125 Km

岩泉町小本 → → 久慈市 →
→ 種市町 → 階上町 → 八戸市

走行時間 8時間45分

5:55	小本 出る	11:20	種市駅入り口
6:15	休み ジュース ¥120-	30	休み バン、ジュース ¥170-
28	出る	40	出る
41	シサトライク 入り口	12:55	葦毛崎展望所 ジュース ¥120-
7:00	島越漁港	13:18	出る
23	休み	26	蕪島
26	出る	30	出る
54	北山崎	55	八戸市内
8:05	出る	14:40	八戸駅
23	太田名部漁港		
30	普代村		————— 電車 —————
9:00	野田YH	21:07	急行十和田 八戸駅出る
10	陸中野田駅		5月5日
42	久慈駅 バン、ジュース	5:30/58	水戸駅 着/出る
53	出る ¥290-	7:16/23	小山駅 着/出る
		9:11	前橋駅 着

やっと倉知と別れて、俺本来の道を引き出す。天気は、快晴。風が吹いている。今日は、八戸駅に夕方8時までに着かなくてはならない。

陸中海岸は、北上山地が海に落ち込み起伏の激しい海岸線を形作り、美しい観光地が多い。なかでも、陸中海岸の北の端にある北山崎からの景観は素晴らしく、200m程の断崖絶壁が南へ続く。足のすくむ様な断崖から見おろすエメラルドグリーンの透き通った海に、岩に砕ける波の白さが映えている。

ちょうどこの年から、北部陸中海岸有料道路が無料になった。北山崎には、8時頃到着。陸中海岸、宮古に別れを告げて八戸市を目指す。

久慈市に入ってから、三人組のサイクリストに出会う。挨拶を交わして走り去る。種市町と階上町(はしがみまち)の間で、青森県に入る。R45を外れて、種差海岸沿いに走る道は狭く、砂ほこりが凄い。まともに目が開けてもらえない。途中、トイレで顔を洗ったら、顔を拭いたタオルが黒くなった。

【急行 十和田】

14時50分、今回の旅の終点、八戸駅に到着。予定より5時間も早い。市内で暇を潰し、夕方7時頃駅に戻る。

21時07分、青森駅始発の急行十和田に乗り込む。座れない事を覚悟していたが、空いている席に座る事が出来た。ちょうど私の相席の二人がサイクリストで、北海道を走ってきたと言う。夜11時頃まで三人で話こんでいた。薄暗くなった電車の座席で、2,30分おきに目が醒めては時計を眺め、そしてまた眠り続けていた。まるで、時空を旅しているかの様に。

いわき市付近で夜が明けて、前橋駅には9時11分到着。改札口の隅で自転車を組んでいると、見覚えのある顔が覗く。二月に館山YHで会った長岡さんだった。彼は、北海道の南西部を自転車で走って来て、私と同じ電車に乗っていたと言う。なんとも、偶然だ。帰りは長岡さんと、途中まで一緒に帰る。

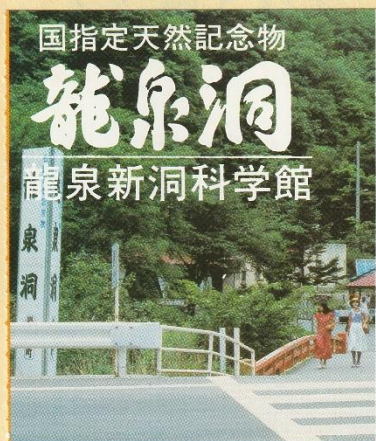
19830501

浄土ヶ浜

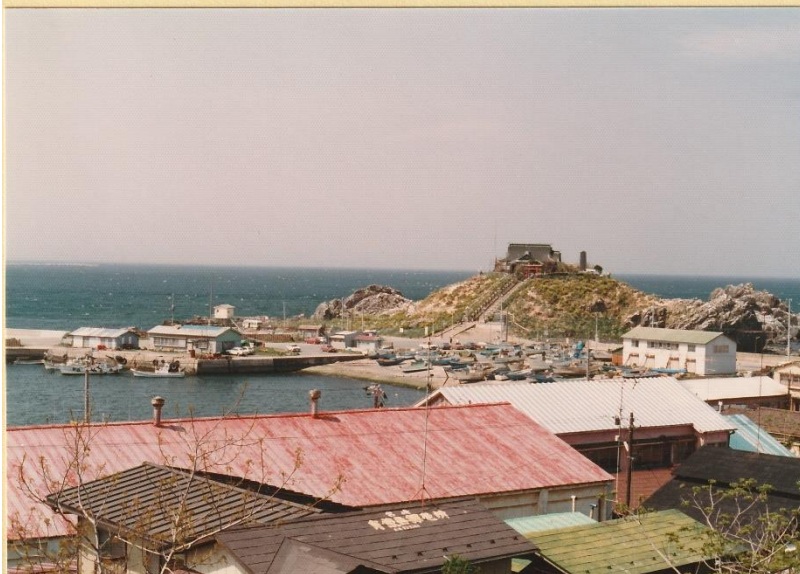


お召し上り記録
 証明書
 盛岡名物
 わんごぼ
 東家
 電話(0196)22-2252





19830502
龍泉洞



19830504
蕪島 (青森県八戸市)

ウミネコの繁殖地で、大正14年
3月 国の天然記念物に指定される。

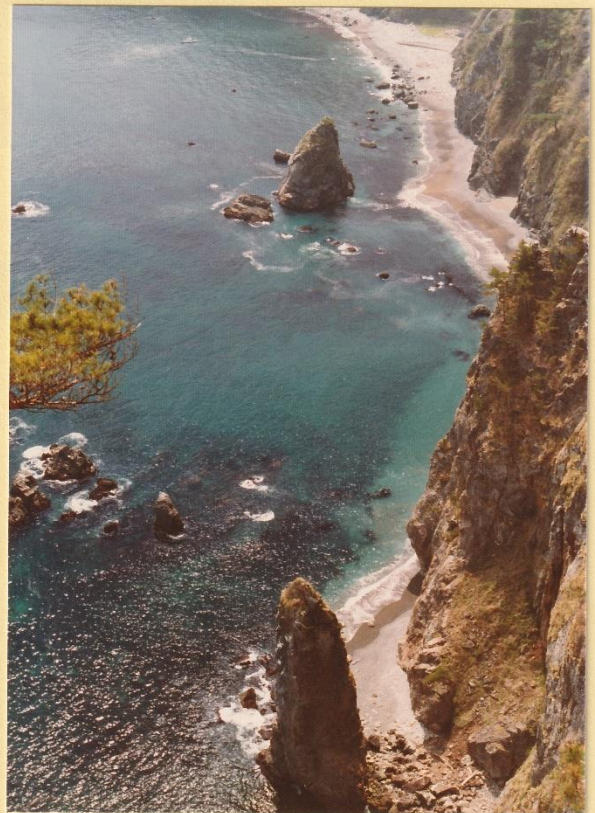
19830502

う
鵜ノ巣断崖



19830501 三王岩 (田老町真崎)

田老崎の北側、船着場からすぐのところ、白亜紀の砂岩礫岩の水平な縞模様をつけた男岩、女岩、太鼓岩が立っており、太陽に輝く海の日の出と黄昏のシルエットが美しい。



島の越の南にある断崖は、高さ200mの絶壁が孤を挿してそびえ立つ、陸中海岸屈指の展望地で赤松林に囲まれた断崖から見おろす碧海は、北山崎と並び絶景。ここから南はテーブル状の段丘、北は幾重にも壁をつくる断崖。断崖の中腹にウミウガが巣を入り、赤松と紺碧の海は相がらしい。

1983 05 02

北山崎

1983 05 02
北山崎

